



CSR Report 2020

Corporate
Social
Responsibility



受付
2021. 3. 22
キャリアセンター





CSR Report 2020

Corporate
Social
Responsibility



Top Message

令和の時代に入り、昨年は即位礼正殿の儀にて天皇皇后両陛下が国内外に天皇即位を宣明され、祝賀御列の儀での華やかなパレードは、新たな時代がスタートしたことを感じさせました。

スポーツの世界では、昨年アジア初開催となる日本でのラグビーワールドカップで、日本は初のベスト8に入る快進撃を遂げ、日本中に感動の渦を巻き起こしました。今年は東京2020オリンピック・パラリンピックが行われる予定で、世界中のアスリート達の活躍が期待されています。

経済面では、新型コロナウイルスの影響や米中貿易摩擦など不確定要素はあるものの、2018年に経済産業省が発表したDX(デジタル・トランスフォーメーション^(※1))レポートを踏まえ、あらゆる産業で2025年の崖^(※2)に対して、IT活用待ったなしの状況となっています。

ITサービスを生業としている当社としては、お客様の競争力強化のために、そしてお客様の真のパートナーとなるために、長期経営ビジョン「Be a Trusted Partner」を掲げています。今年は、これに基づいて策定した3か年の中期経営計画「Get Trust! 2020」の最終年であり、お客様からの信頼を得るべく、お客様向け体制強化、デザイン思考を取り入れた人材育成プログラムの全社展開などを確実に推進していきます。

※1. デジタル・トランスフォーメーション (DX: Digital Transformation)
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、顧客に新しい体験を提供することにより競争力を持たすこと。

※2. 2025年の崖
ブラックボックス化したレガシーなシステムが、データの利活用や連携を限定的にし、システムの維持や保守に資金・人的リソースが割かれてしまうことで、新しいデジタル技術やビジネスモデルに企業資源を投じることができなくなり、グローバルな競争で負けてしまうという危機。



また、先進技術トレンドへの対応強化を図るために技術開発本部を新設しました。当CSRレポートの特集で取り上げていますが、先進技術への取り組み強化のための技術戦略ロードマップを立案し、AI、IoTなど、先進技術ビジネスの推進をさらに加速させ、お客様のDXに貢献していきたいと考えています。

国連では、SDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」が採択され、国連加盟国が2016年から2030年までの15年間で達成を目指す課題・目標が掲げられています。当社の直接的な貢献は限られていますが、SDGsで掲げられた課題・目標を意識し、かかわることで、永続的にお客様へサービスを提供する企業にしていきたい所存です。そのためにも、大前提であるコンプライアンス遵守の徹底は継続していきます。

以上の考えのもと、お客様やビジネスパートナー様、社員をはじめ地域社会を含むすべてのステークホルダーの皆様とともに発展するべく取り組んでいる活動内容を当CSRレポートにまとめています。当レポートをご覧になった皆様、当社の活動を通じた社会貢献にご理解いただけることを切に願っております。

代表取締役社長

田野美雄



Contents

特集

03 神戸製鋼グループへの貢献

お客様とともに

- 05 「Be a Trusted Partner」に向けて
- 07 お客様から信頼されるパートナーに
- 09 先進技術への取り組み強化
- 10 先進技術のビジネス化推進と社内外への発信・共有
- 11 品質向上活動に終わりはしない
- 13 セキュリティなくしてビジネスなし
- 14 外部からの評価
- 15 お客様事例紹介

ビジネスパートナー様とともに

17 公正なパートナーシップの維持

社員とともに

- 19 人材育成の仕組み
- 22 社員と組織の絆を深めるために

地域社会とともに

23 環境保護・地域貢献活動

CSRを支える経営基盤

- 25 コベルコシステムのCSRを支える経営基盤
- 25 コベルコシステムのCSRとSDGsとの対照表

26 会社プロフィール / 沿革 / 取得済の認証・認定・許可 / 編集後記

【報告対象期間】

2019年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

神戸製鋼グループへの貢献

コベルコシステムは、神戸製鋼グループのIT機能の一部を担う、「IT機能分担会社」の側面を有しています。日本IBMから神戸製鋼所様へのITの戦略的アウトソーシングにおける実行面の役割はもちろん、先進技術の活用やグローバル対応などを含め、ITによる神戸製鋼グループ企業のさまざまなビジネスへの貢献に取り組んでいます。「セキュリティ強化の取り組み」もまさにその活動のひとつです。

神戸製鋼所様の情報セキュリティ強化の取り組み

Action of the information security enhancement at KOBELCO Group

インターネットは今や企業活動にとって、なくてはならないシステム基盤です。一方で、インターネットを経由したサイバー攻撃は、敵対企業、敵対国家を巻き込んだブラックビジネスとしての市場が形成され、機密情報の搾取、システム基盤破壊による企業活動の妨害など、企業活動の大きなリスクとなっています。

神戸製鋼所様では、年々高度化するサイバー攻撃に対抗するため、2016年12月公布された経済産業省「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」に沿って、グループ一体でセキュリティ強化策を打ち出されました。コベルコシステムはその推進の支援を通じて情報セキュリティ強化に貢献しています。

- 2012年10月 グローバルITガバナンスの一貫として海外PCセキュリティ対策展開、拠点FW整備セキュリティツールヘルプデスク運用開始
- 2014年10月 グループ共通のセキュリティ対策センターと連絡窓口(K-SOC: KOBELCO Security Operation Center)開設
- 2017年 4月 経済産業省サイバーセキュリティガイドライン(改訂1.1版)公布をうけ、情報セキュリティ基本方針制定と規定・標準整備
- 2017年 8月 インターネットの境界防御システムを構築、K-SOCを強化し予兆監視を開始
- 2017年12月 セキュリティ事故発生時の対応力強化とサイバー攻撃の監視強化と予防保全を目的にCSIRTを設立し、運用開始
- 2018年12月 クラウドサービスに対するセキュリティ防御対策の運用開始

CSIRT[※]の立ち上げと運営の支援

Computer Security Incident Response Team

情報セキュリティの強化は、テクノロジーだけでは達成できません。企業活動にかかわる従業員の教育、統制とインシデント発生後の迅速な意思決定が必要になり、そのための標準・規定、

プロセスの立ち上げと運用が重要になります。コベルコシステムは、お客様のCSIRTの立ち上げ、運営の支援を通じて、神戸製鋼グループのセキュリティガバナンスの強化に貢献しています。



- 改善(Action)フェーズ**
- セキュリティ教育コンテンツ作成
 - 強化改善策の立案実行
- 評価(Check)フェーズ**
- 脆弱性検査支援
 - 標的型メール訓練支援



- 計画(Plan)フェーズ**
- セキュリティ標準・既定の作成・更新支援
 - 情報セキュリティ委員会の運営支援
- 実行(Do)フェーズ**
- リスクアセスメント支援
 - 特定監査実施支援

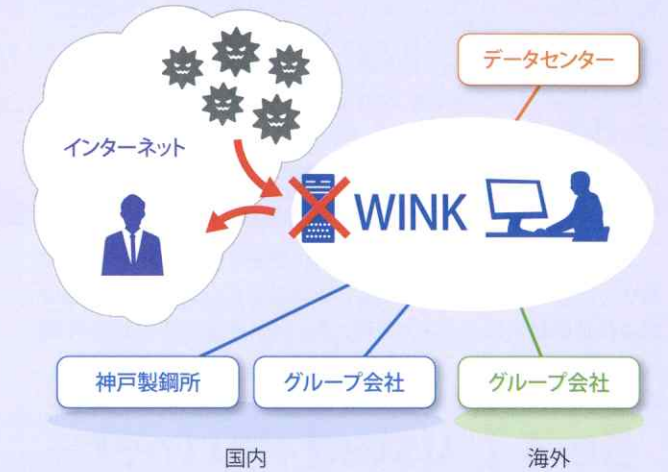
神戸製鋼グループにおけるCSIRTの位置づけとコベルコシステムの支援内容

※ CSIRT (Computer Security Incident Response Team, シーサート) コンピュータやネットワーク(特にインターネット)上で何らかの問題(主にセキュリティ上の問題)が起きていないかどうかを監視するとともに、万が一、問題が発生した場合にその原因解析や影響範囲の調査を行う組織の総称。

神戸製鋼グループ基盤ネットワーク(WINK)への対策

WINK: Wide Information Network for KOBELCO Group

コベルコシステムが運用する神戸製鋼グループ基盤ネットワーク(WINK)は海外を含め、事業部門、グループ会社(約260社/700拠点)が利用する通信の大動脈です。WINKに接続される数万台のPCや、当社データセンター内のサーバーなどへの攻撃を守り、外部への不正な情報漏えいを防ぐため、WINKとインターネット接続点を複数のテクノロジーで監視・防御(インターネット境界防御)しています。



- 外部から送信されるメール添付ファイルを検査し、PCのマルウェア感染を防止
- インターネット間の不正通信を検知し、感染したPCを特定することで感染の拡大を防止
- インターネット間の不正通信を検知し、マルウェアの侵入、重要情報の流出をブロック

セキュリティ対策標準サービス展開によるグループ会社セキュリティ対策の推進

Standard Security Tool Services

神戸製鋼グループ基盤ネットワーク(WINK)には、数万台のPCが接続されています。これらの一部がセキュリティ対策を怠り、マルウェアに感染すると、感染はWINK内を拡散し、ネットワーク全体のPCやサーバーに重大な影響を与えるため、網羅的で均一なPCセキュリティ対策の実施が必要です。

コベルコシステムは、PCに対する標準セキュリティ対策製品を神戸製鋼所様と選定し、海外を含め構築、PCへの展開、運用をサービスとして提供しています。同時に、日常的な監視も担当することで、安心安全な環境を利用者に提供しています。特に独自にセキュリティ対策を講じることが難しい、小規模のグループ会社様へ安心な環境を提供しています。

PC向けサービス	防御機能
ウイルス感染防止対策	ウイルス感染ファイルの特定・隔離
パッチ適用管理	セキュリティパッチ適用と適用管理
PC資産管理	PC構成情報管理、操作ログ管理
外部データ書き出し制御	USBなどファイル外部書き出し制御
エンドポイント保護(EDR)	複数PCと連動し通信、PC内プロセスの活動状態から不審な動向を検出
スマートフォン向けサービス	防御機能
モバイルデータ管理(MDM)	スマートフォン紛失時のデータ消去、スマートフォン保存データの暗号化

セキュリティ対策標準サービス

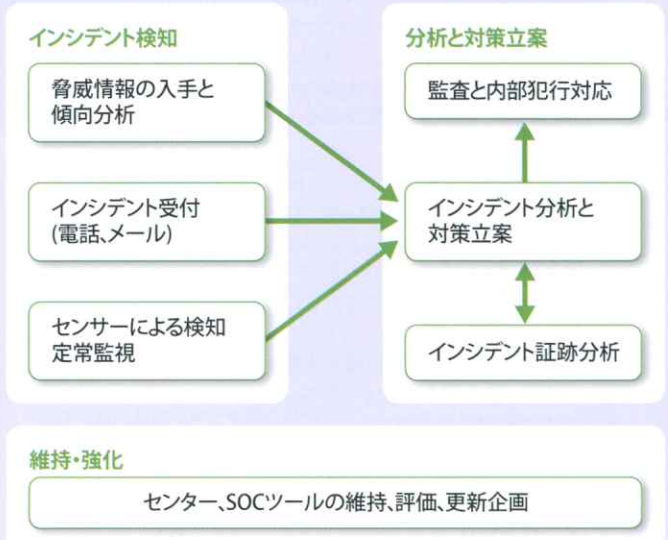
K-SOCの強化

K-SOC: KOBELCO Security Operation Center

K-SOCは、インシデント発生(PC・携帯電話の紛失、不審メール開封など)の通報、セキュリティ対策の相談など、グループ内のセキュリティ状況を統括的に把握、対応するため、2014年に神戸製鋼グループ共通のセキュリティ相談窓口として開設され、コベルコシステムが運用を支援しています。現在では、インターネットの境界防御、セキュリティ対策標準サービスの展開により業務範囲は拡大しています。加えて高度化された検知センサーからのアラーム情報を分析ベンダーと協業リアルタイムに監視、分析するとともに、インシデント発生を未然に防ぐ予兆分析も実施しています。

サイバー攻撃が検知された場合、K-SOCメンバーはアナリストとして技術情報の分析と対策の立案を行い、CSIRTのお客様側の担当者(インシデントハンドラー)と連携、適切な対策指示の意思決定ができるよう支援しています。サイバー攻撃は、いつ仕掛けられるかわからないため、常に品質を意識して、監視・分析を行っています。

このような継続的な活動を通じ、神戸製鋼所様の情報セキュリティを確固たるものにすることに貢献しています。



K-SOC業務フロー図



「Be a Trusted Partner」に向けて

コベルコシステムの経営理念

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

長期経営ビジョン・中期経営計画

コベルコシステムは、今後も永続的に発展を続けるために、将来
ありたい姿を示した長期経営ビジョン『Be a Trusted Partner』
および長期経営ビジョンの実現に向けた3か年の中期経営計画

『Get Trust! 2020』(2018年～2020年)を2017年に策定しました。
顧客基盤の強化を図るとともに、Trusted Partnerになるための人材
育成や社員の行動変革を促す仕組み作りなどに注力しています。

■ 長期経営ビジョン

Be a Trusted Partner

お客様に信頼されるパートナーとして

- お客様にとってなくては困る会社
- お客様とともに成長する会社
- 社員が誇りを持てる会社

■ 中期経営計画

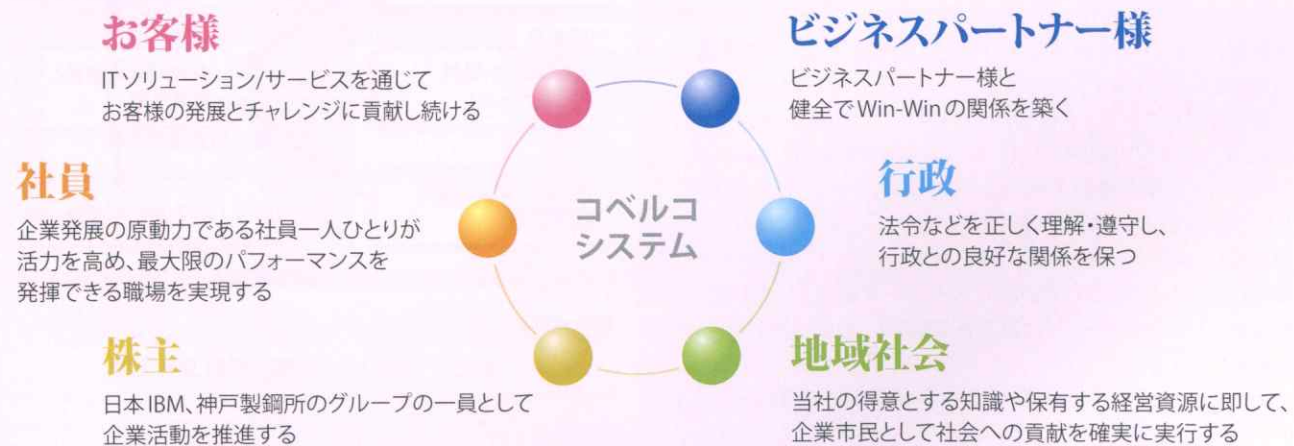
Get Trust! 2020

- 長期経営ビジョン実現への第1ステップとして顧客基盤強化の足固めの3か年とする
- Trusted Partnerとなるための人材育成、社員の行動変革を促す仕組みづくりに経営資源を投下する
- お客様とともに成長する

■ 中期経営計画(事業戦略)

成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様に対して、営業部門と開発部門が連携したチームを設置することにより、顧客接点を強化 ● お客様軸での目標設定および目標に対する施策の推進状況を定期的にマネジメント ● 事業部間の人材ローテーションなどシナジー効果を発揮し、ソリューションを強化
リソース戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 新卒採用を増やすことでリソースを確保するとともに、早期育成により即戦力化 ● デザイン思考を取り入れるなど、Trusted Partner になるための社員の意識変革を促進
技術戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● フォーカスすべき12のコア技術を定め、優先度を決めて早期立ち上げに注力 ● 継続的な品質改善活動やトラブル対応力の向上によるさらなるQCDの強化
経営基盤強化戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 法令を遵守し、コベルコシステムの関連会社であるコベルコソフトウェアサービスとの一体経営を進めることにより、コベルコシステムグループとして経営基盤を強化 ● 個人と組織の生産性を高め、かつ多様な人材が高い次元でワークライフバランスを実現する働き方改革の取り組みを推進 ● 役割・貢献に応じた人事制度改革を推進

コベルコシステムのステークホルダー



長期経営ビジョンの実現に向けた2019年の主な取り組み

■ お客様向け体制強化

コベルコシステムがお客様に信頼され続けるパートナー(Trusted Partner)であり続けるため、お客様を担当するクライアント営業、クライアントSE、およびクライアント役員で構成する「クライアントパートナーチーム」の設置を段階的に進めています。

このクライアントパートナーチームの活動状況は四半期ごとに開催する全社CPS^(※1)にて定期的に報告し、全社でマネジメントしています。

さらに、クライアントパートナーチームの活動状況のマネジメントだけでなく、コベルコシステムをTrusted Partnerとして評価いただけるお客様を今後も増やしていくため、営業部門で策定した施策の進捗状況の確認および課題解決に向けたアクションの検討を経営陣を交えた四半期ごとの会議で行っています。

※1 CPS(Client Planning Session): クライアントプランニングセッション

■ 人材の確保と育成

【お客様の期待に応える人材確保】

新卒・キャリア採用を中期の重点施策として掲げ、2020年入社の新入社員については前年比約50%の採用増を実現しました。今後も採用体制の強化を図り、今年度並みの新卒採用数を目指していきます。

【TP(Trusted Partner)人材育成教育プログラム】

「お客様の本質的な要求を発見し、カタチにする」ことができる人材の育成を目指し、デザイン思考、BABOK^(※2)、およびUSDM^(※3)のメソドロジーを活用した当社独自のプログラムを2018年に試行し、2019年から全社への展開を開始しています。

※2 BABOK: Business Analysis Body Of Knowledge

※3 USDM: Universal Specification Describing Manner

【社員の自立性を育むタスクフォース型活動】

社員の自立性を育み、自己実現できる場として、社員から募集したメンバーによる全社横断のタスクフォース型活動を2019年も実施しています。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2019年の活動結果

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム^(※4)の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織・プロセスの変革に取り組んでいます。各カテゴリーでの2019年の活動結果を下記フレームワークに示します。

※4 日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。





お客様から信頼されるパートナーに

コベルコシステムでは「お客様満足度向上活動(CS:Customer Satisfaction)」を、経営を支える大切な取り組みとしています。お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社づくりに取り組み続けています。お客様に愛され信頼される真のパートナーとなるために、社員の豊かな心、そして会社としての着実な進歩を目指します。

CS通信

社員の体験談などを記載したCSコラムを中心に、CSに関連した情報を毎月一回、全社員にメールで配信しています。

親しみやすい内容で構成し、社員の興味を引き出しながら、CSの意識向上に役立てています。

活動結果のご報告

お客様と共有した改善の進捗状況や達成状況の報告を行い、ご期待に応えることができたかを評価していただいています。

活動が不十分であったのかどうかや、さらなる課題についても確認し、継続して活動していきます。



CS調査

お客様がコベルコシステムに求められていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための手段としてお客様からのご意見や評価をいただく「CS調査」を行っています。

CS調査は、コベルコシステムの活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を実施しています。

CSスローガン

毎年、社員からCS推進のスローガンを募集し、その中から全社員の投票により翌年のスローガンを決めていきます。決定したスローガンはポスターにして各事業所の執務フロア、会議室など、社内各所に掲示し、社員のCS意識の向上を図っています。



2020年CSスローガン

着実な進歩

報告

Be a Trusted Partner

聴く

共有

実行

を目指して

CS研修

社員のCS意識のさらなる浸透を目指して、毎年、全社員を対象としたCS研修をe-ラーニング形式で行っています。また、一泊二日の合宿形式のコースや、2時間コースの討議会を年数回、開催しています。

これらの研修は、Trusted Partnerとなるための心豊かな感性を育む場として重要な役割を果たしています。



業務改善活動

お客様からいただいたご意見にお応えするための取り組みをはじめ、業務効率化や品質向上などの自分たちで認識した課題に対しても積極的な取り組みを行っています。業務改善活動のプロセスを着実に実行することで、会社としての成長、着実な進歩を目指しています。

活動の成果を発表する場として、業務改善活動発表会を年1回開催しています。全国各地の事業所をTV会議システムで接続し、活動内容の共有と横展開を図っています。



改善内容の共有

CS調査でお客様からいただいたご意見をもとにお客様の課題とコベルコシステムへのご期待を確認し、今後の改善内容について共有しています。コベルコシステムでは、その内容に基づいて改善活動を行っています。



CS委員会

お客様満足度向上の観点から、全社レベルの施策を検討し、着実に対応する仕組みとしてCS委員会を設置しています。

2002年の活動開始から今日にいたるまで、お客様に満足していただけるサービスをお届けできるように、社員のCS意識の向上に向けたさまざまな活動を展開しています。



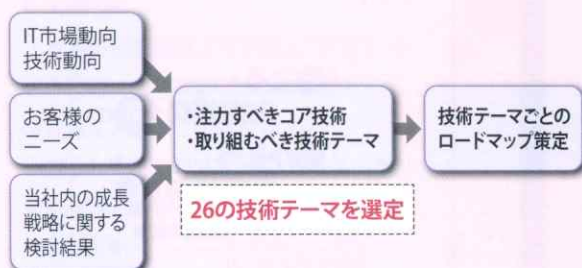
豊かな心を目指して

先進技術への取り組み強化

技術戦略ロードマップ

コベルコシステムでは中期経営計画の中で技術戦略を策定し、フォーカスしていく技術やソリューションを定めています。この中期経営計画のローリング(見直し)を実施するにあたり、当社のコアメニュー領域と今後当社がお客様に提供していく次世代ソリューション領域を融合した「技術戦略ロードマップ」を策定しました。

ロードマップ策定のステップとして、お客様のニーズやIT業界の市場動向、技術動向を踏まえて注力すべきコア技術と、取り組むべき技術テーマ(コア技術を活用したソリューション、サービス)を選定しました。



ここで選定した26の技術テーマは、いずれもお客様のデジタル変革(DX)実現に貢献するためのソリューションやサービスとして、以下の4カテゴリに分類しています。

- DXを支える基盤技術/ソリューション**
スマートファクトリのプラットフォーム、AIを活用したデータ分析サービス、セキュリティ分野の高度ログ分析、5G、ブロックチェーンなどの先進技術活用など
- DX実現に貢献する高度化/自動化**
AI、RPAの活用による業務自動化、保守運用サービス高度化、製造業向け分析サービスなど
- DXを支えるアプリケーション/サービス**
ITモダナイズーション、設計・開発など、提供している既存ソリューションのクラウド化、テンプレート化による拡張と機能拡大など
- DXを実現する開発/手法**
次世代のWeb開発手法、システムコンバージョン、デザインシンキング・アジャイル開発などの活用によるシステム構築支援など

＜技術戦略ロードマップ(2020年～2023年)の一例＞ ※26の技術テーマから抜粋

2020年	2021年	2022年	2023年
次世代Web開発			
Level 2 Level 3 Level 4 Level 5	Level 6	▲展開、継続の見極め	
評価検証 ソリューション化準備 PoC、パイロット適用	案件適用・拡大		
製造現場のAI高度化ソリューション			
Level 5 Level 6	▲展開、継続の見極め		
パイロット適用 案件適用・拡大			
ECC→S/4HANA システムコンバージョンサービス			
Level 5 Level 6	Level 7	▲展開、継続の見極め	
パイロット適用 案件適用・拡大	当社主メニューとしての展開		
行動分析・内部脅威検知サービス			
Level 4 Level 5 Level 6	Level 7	▲展開、継続の見極め	
パイロット適用 案件適用・拡大	当社主メニューとしての展開		
ブロックチェーン			
Level 1 Level 2 Level 3 Level 4	Level 5	▲展開、継続の見極め	
調査・検証 ソリューション化準備 PoC、パイロット適用			

ロードマップの到達レベル指標

- | | |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| Level 4 人材育成、人材採用やパートナーとの提携などを具体的に推進している | Level 8 当社の主メニューのひとつを支える技術やサービスとなっている |
| Level 3 サービス、ソリューションを展開する意思決定がなされている | Level 7 特定市場、分野において当社のメニューを支える技術やサービスとなっている |
| Level 2 サービスや技術の評価・検証、アセスを実施している | Level 6 数社のお客様(または社内)での実績を得て経験値の蓄積と課題が見えてくる |
| Level 1 技術動向、市場動向、他社動向などの調査を行っている | Level 5 特定のお客様や社内向けのPoCやパイロットプロジェクトを実施している |

このロードマップは2023年までの中期的な方向性として策定しており、それぞれの技術テーマに対して、関連する担当部門が連携し、いつ、どのようなアクションにより、どのレベルまで到達するのかを別途定めています。

今後、必要に応じてロードマップの更新を行い、市場動向やお客様のニーズに合ったソリューション、サービスを提供していきます。

先進技術のビジネス化推進と社内外への発信・共有

デジタルイノベーションセンター

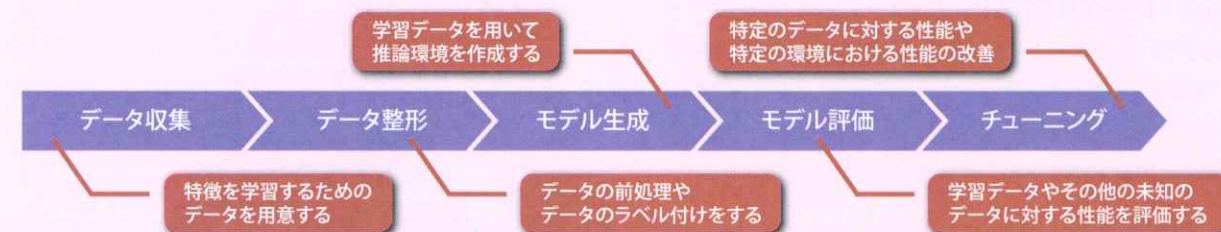
当センターでは、強化すべき先進技術領域であるAI、データ分析、IoTの検証とビジネス化を推進しています。3つの先進技術領域の活用により、神戸製鋼グループの製品開発や製造プロセスの高度化と

革新に貢献しています。なかでも、2019年は画像認識技術に注力し、AIを実現するための技術の一つであるディープラーニングを用いた外販のお客様のシステム開発案件を担当させていただきました。

＜画像認識AIによる製造業のデジタル改革＞



＜AI(ディープラーニング)を用いた画像認識環境の構築に必要なステップ＞



先進技術カンファレンス

卓越した技術のコベルコシステムをめざすべく社員の技術力向上とノウハウ共有を目的に、社内への先進技術の普及推進および事例紹介を通じた「先進技術カンファレンス」を年1回開催しています。

本カンファレンスは、社外から招いた講師による先進技術についての基調講演とIT業界やお客様から注目される技術に取り組んでいる社員による事例紹介を中心としたセッションで構成しています。

毎年、システムエンジニアを中心に100人以上の社員が出席し、日頃の業務とは異なる分野での技術や適用事例に触れ、刺激を得る機会にもなっています。



先進技術カンファレンス 会場風景

＜2019年のプログラム＞

- 基調講演:** 「IoT x AI ビジネスを成功に導くアプローチ」
取り組み事例: ① 「技術開発本部におけるAIの取り組み」
 ② 「次世代Web開発SPAのプロジェクト事例と社内展開」(SPA: Single Page Application)
 ③ 「トラブルプロジェクトの最短リカバリー手法 ～水面下に潜むトラブル源への早期アプローチ～」



取り組み事例の発表風景

品質向上活動に終わりは無い

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証取得したISO9001をベースに品質マネジメントシステム「KQMS」を構築しています。この下に「KDPS」「品質レビュープロセス」と呼ぶ当社独自の仕組みを構築しています。

2020年 全社品質方針

“Be a Trusted Partner”の実現に向け、
デリバリー品質向上の仕組みを継続的改善によりさらに強化し
高いレベルでの品質の均一化を図る

品質マネジメントシステム

KQMS: KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

全社で共通のQCD管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況を一元管理しています。全社品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューのもとでQCDの管理レベルの底上げとプロジェクト情報の見える化を実現し、また継続的に改善活動を行うことによって組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

※QCD: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (進捗)

開発プロセス標準

KDPS: KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards

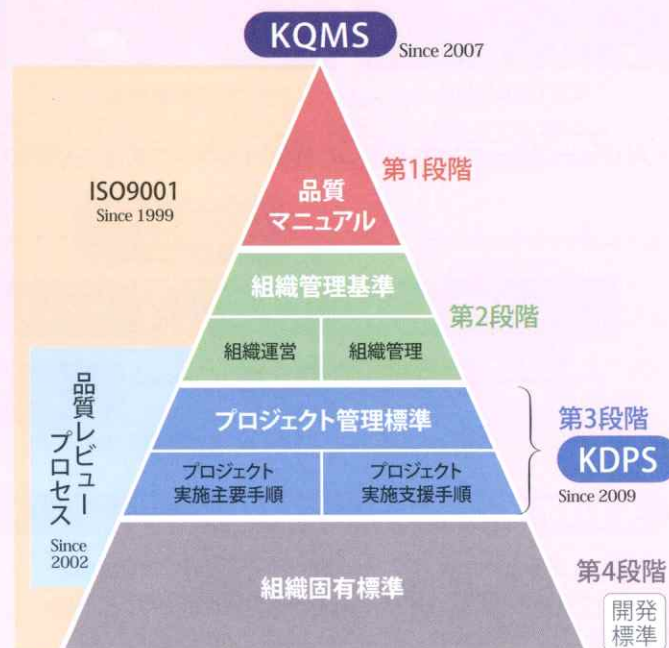
KDPSは、当社独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。

プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させ、管理作業効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。

品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。

このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うため、特別に訓練されたレビューアにより実施されています。



品質マネジメント体系図

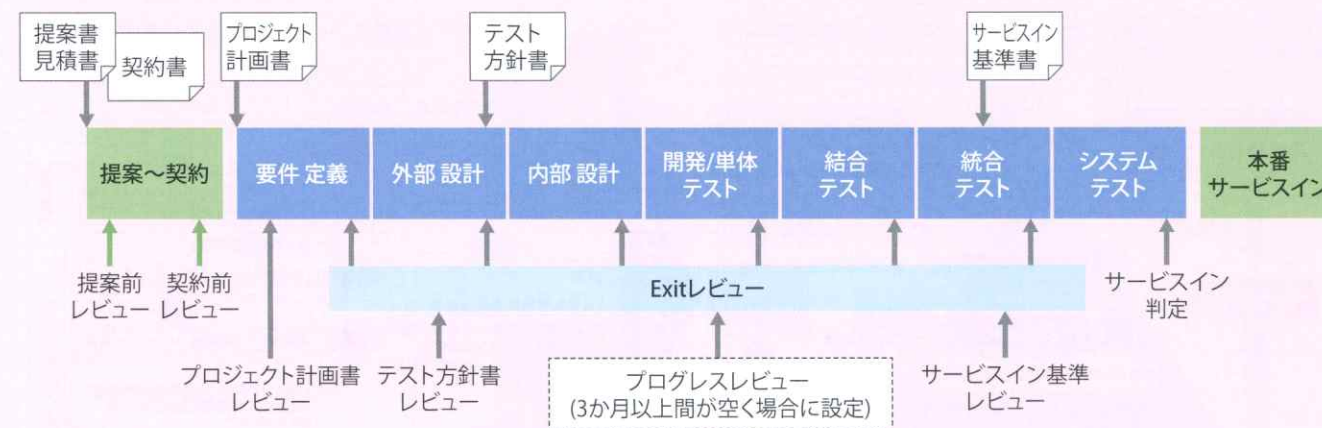


品質マネジメント体制

ライフサイクルを通じての品質レビュー

品質レビューは、お客様への提案時から始まります。ご提案の内容は技術的に実現可能であるか、プロジェクトの計画は妥当であるか、などの観点で確認し、お客様にとって最適なご提案であることを確認します。

プロジェクト開始後は、立ち上げとともにそのプロジェクトの実行計画のレビューを行い、計画の妥当性を確認します。そして、各局面の終了前にはExitレビューを実施し、その工程で実施すべき事項が完了しているか、そして、次の工程の準備ができていないかを確認して次工程へ進むことで品質を担保します。

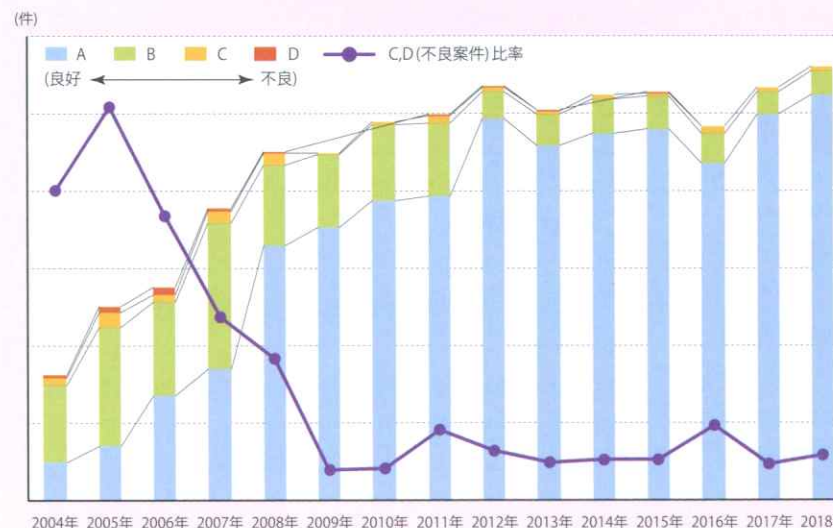


プロジェクト教訓情報の社内公開

コベルコシステムでは、毎年、数多くのプロジェクトを実施していますが、過去のプロジェクトから学ぶことはまだまだ多く、さまざまな経験はコベルコシステムにとって貴重な財産です。「品質レビュープロセス」を通じて、多くのプロジェクトの情報が集まり、そのエッセンスをデータベースにまとめて社内公開し、他のPMのスキル向上に役立てています。

これらの活動により、不良案件(予定に対するQCD異常が認められる案件)は減少に転じ、低い発生率を維持しています。

今後も引き続き「お客様の満足」向上に貢献する活動を追求していきます。





セキュリティなくしてビジネスなし

外部からの評価

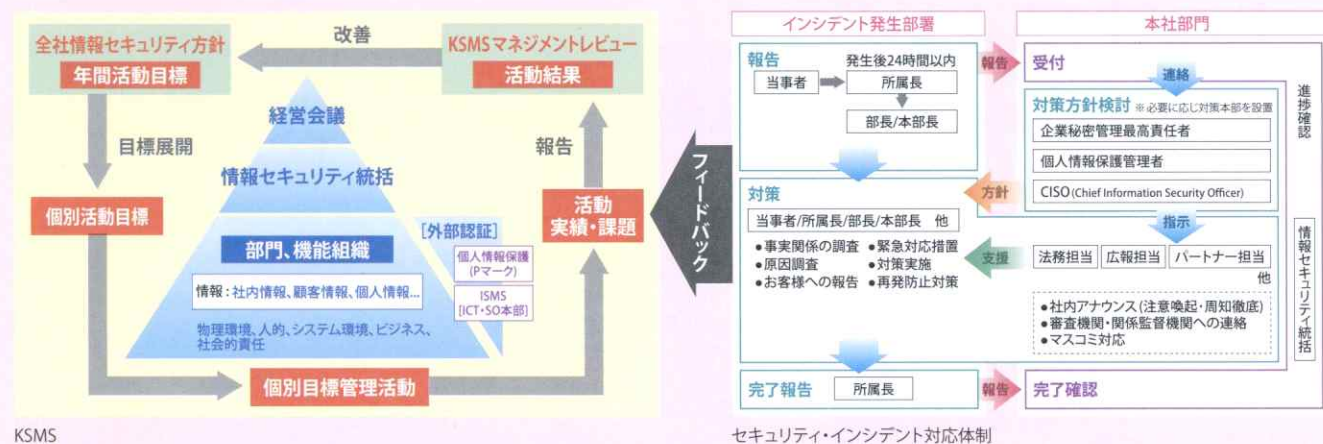
コベルコシステム情報セキュリティマネジメントシステム

KSMS : KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

インターネットが社会の経済活動に欠かせないインフラへ成長するとともに、ITを利用したテロ、詐欺、窃盗や個人情報漏えいなどが大きな社会問題となっています。

このような社会的要請のもと、情報システムを生業とする当社としては関連会社も含め、KSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSは、経営幹部による

マネジメントレビューのもと、情報セキュリティポリシーの設定・見直しおよび、「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAを回し、リスクの変化に適応した最適なセキュリティ水準を維持しています。また、突発的なセキュリティ・インシデントには、全社対応体制を整備し運用するとともに、適宜セキュリティ活動にフィードバックしています。



KSMS

セキュリティ・インシデント対応体制

感謝状・アワード

コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとうございます」。コベルコシステムが実施した先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどに評価いただき、2019年もお客様やビジネスパートナー様から多くの感謝の声が届けました。

キャタラー様^(※1)

株式会社キャタラー様のグローバル生産管理システム構築プロジェクトにおいて、最新のIT技術と強力なプロジェクト管理により、コスト超過なく、スケジュール通りにシステムをサービスインさせた功績が認められ、表彰楯をいただきました。



※1 キャタラー様：P.16にお客様事例を紹介

SAP AWARD OF EXCELLENCE 2019 優秀賞

SAP S/4HANAテンプレートを活用した本多通信工業様^(※2)「FESプロジェクト」がSAP AWARD OF EXCELLENCE 2019 優秀賞「プロジェクト・アワード」を受賞しました。



これにより「SAP AWARD OF EXCELLENCE プロジェクト・アワード」は8回目の受賞となりました。
※2 本多通信工業様：P.15にお客様事例を紹介

mcfame Award 2019「Excellent Partner」

mcfameパートナー総会2019において、「Excellent Partner」を受賞しました。mcfame7の新規顧客を数社獲得し、ライセンス出荷額で上位の実績をあげ、2017年度から2年連続でMCCP^(※3)技術者数第1位であることが評価されました。



※3 MCCP：mcfame認定資格

IBMユーザー研究会 第57回IBMユーザー論文入選 / JGS(日本ガイドシェア) 優秀論文入選

全国IBMユーザー研究会連合会が主催する第57回IBMユーザーシンポジウムにおいて、コベルコシステムから、IBMユーザー論文として銀賞2件、銅賞2件、奨励賞2件を受賞し、表彰されました。

また、日本GUIDE/SHARE委員会(JGS)の「JGS IT-Conference 2019 JGS研究2019論文発表会」において、コベルコシステムから、優秀論文3編、特別賞3編が入賞しています。

IBMユーザー論文	銀賞	グローバル製造業における規制・認証制度への対応業務の効率化とリスク回避の取り組み～認証管理システムの構築～
	銀賞	トラブルプロジェクトの最短リカバリー手法～水面下に潜むトラブル源への早期アプローチ～
	銅賞	業務標準化プロジェクトを円滑に進めるための取り組み
	銅賞	国内システム開発導入に向けたアジャイル開発プロセスの提案
	奨励賞	チャットボットを利用したヘルプデスク変革への挑戦
JGS研究論文発表会	奨励賞	ISMS認証適用範囲拡大におけるセキュリティ運用改善の取り組み
	優秀論文	RPAのAI的發展と活用
	優秀論文	メインフレームのライフサイクル短期化に対する対応
	優秀論文	インフラ案件におけるプロジェクト・マネジメント
	特別賞	業務システムにおけるAI(機械学習・ディープラーニング)の現実的な適用
特別賞	特別賞	デザインシンキングを取り入れたプロジェクト計画
	特別賞	クライアントセキュリティ対策

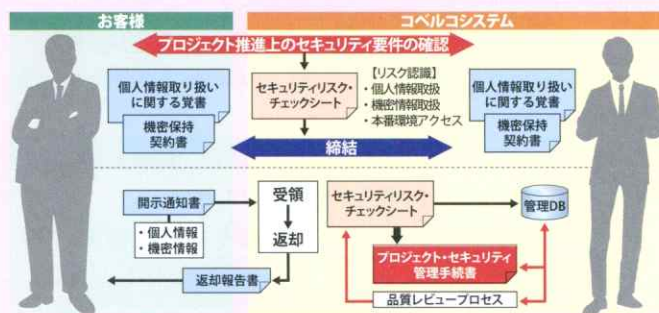
プロジェクトセキュリティプロセス

PSP : Project Security Process

コベルコシステムでは、プロジェクトのQC管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。

PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することがコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



プロジェクトセキュリティ対策概念図

情報セキュリティマネジメントシステム

ISMS : Information Security Management System

コベルコシステムのISMS認証は、2003年のハウジングサービス事業から始まり、適用範囲を徐々に拡大して、現在ではシステム事業部ICT本部全体で取得しています。

また、システム事業部SO本部でも日本IBMグループの統一認証を取得しています。

お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理下でのサービスを提供します。

個人情報保護の推進

お客様、社員の個人情報を適切に保護することは、コベルコシステムの重要な責務です。

コベルコシステムは、プライバシーマーク制度の付与事業者となった2000年以降更新を重ね、個人情報を適切に保護する措置を構築しています。

また、毎年、全社員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報保護の理解を深めるとともに意識の向上に努めています。



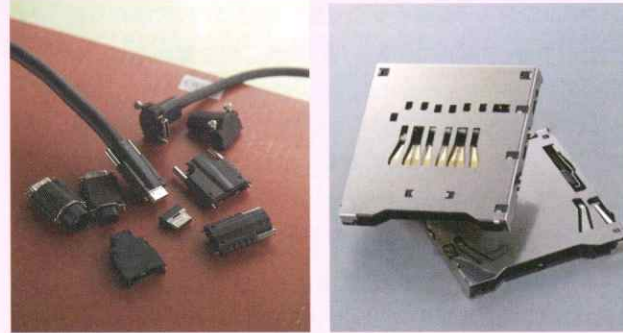
お客様事例紹介

HTK

本多通信工業様

本多通信工業株式会社様(代表取締役社長 佐谷 紳一郎様)は、1932年に精密ねじ加工業として創業し、電話交換機用プラグ・ジャックの開発などを経て発展したコネクタ専門メーカーです。

“Value by Connecting”(つなぐ喜び、創る感動)を理念に掲げ、通信機器や電子機器に使用するコネクタの製造・販売事業を展開しています。複数のニッチ分野でトップを狙う“Segments No.1”を基本戦略に、事業領域を通信分野からFA分野、車載分野へと拡げています。



本多通信工業様の代表製品

「SAP S/4HANA導入後も、業務改革は着実に進んでいます。業務面では標準化が進行し、帳票を使い分ける手間や、サプライヤーごとに対応する業務負荷も少なくなりました。さらにEDI化率も高まり、業務が効率化されています。全社目標に掲げた『楽動化』に向け、社員の判断業務へのシフトや、年間1.2万時間程度の残業時間の削減につなげていきます」と、取締役 コーポレートセンター担当の水野 修様は語ります。

「システムが統合されたことで、データのリアルタイム連携を実現し、管理会計の機能が強化されました。すべての処理をSAP S/4HANAの内部で実行することで、精度の高いデータ取得や分析が可能になり、的確な手が打てるようになって考えています」と、コーポレートセンター IS企画グループ グループマネジャーの黒野 尚様はシステム導入を評価しておられます。



本多通信工業様 安曇野工場

2017年当時の同社では、従来の基幹システムを長年使い続けてきた結果、出荷やロット管理、受発注の方法などが業務と乖離するようになっていました。ビジネスモデルが大きく変わっていくなかで、従来の基幹システムのままでは、オペレーションが複雑になり非効率なため、今後の成長の足かせとなりがねない状況でした。

そこで同社は、持続的な成長に向けて基幹システムの刷新と業務改革に乗り出しました。従業員が『楽に、楽しく』働けるようにしたいという考えのもと、生産性向上と働き方改革を『楽動化』という言葉に代えて活動しておられ、新システム導入を機に、オペレーション業務から判断業務へのシフトと残業時間の削減を目指しました。

コベルコシステムは、製造業のシステム導入における豊富なノウハウを活かした提案が評価され、基幹システムSAP S/4HANAの導入パートナーとして選定していただきました。2017年10月からスタートした導入プロジェクトは、ビジネス設計、構築、検証フェーズを経て、2018年8月中旬に終了し、国内で本稼働を開始しました。トップダウンの元でアドオン・ゼロを目指したことにより、わずか10カ月で会計、販売、在庫購買、生産の全モジュールを導入することができました。



右:取締役 コーポレートセンター担当 水野 修 様
左:コーポレートセンター IS企画グループ グループマネジャー 黒野 尚 様

今後は、これまでのノウハウを活かしながら海外工場への展開を進めていく予定です。コベルコシステムは、新技術活用による業務効率化や、サプライチェーン全体の改善といった持続的な成長に向けて、これからもお客様を幅広く支援していきます。

CATALER

キャタラー様

株式会社キャタラー様(代表取締役社長 砂川 博明様)は、自動車排出ガスのクリーン化のカギを握る“触媒”のテクノロジーに圧倒的な強みを持っている会社です。そして現在、その世界トップレベルの技術を多方面に応用し、時代の要請に応えようとしています。



触媒製品

同社では2015年に、10年後における「ありがたい姿・めざすべき姿」を示すため、「躍動」「躍進」「飛躍」をスローガンとした「GLOBAL VISION 2025」を策定し、自動車用触媒の年間生産数をグローバル規模で1.5倍に増やすという野心的な目標を掲げました。

その実現のためには、今まで以上に効率的な生産の仕組みを整備し、グローバルサプライチェーンを構築する必要があります。これには経営環境の変化に柔軟に対応し、グローバル経営に資する情報システムが不可欠であることから、同社は「i-Cataler 2020」と呼ぶ戦略的IT活用プロジェクトを立ち上げ、G-CPS (Global-Cataler Production management System)と名付けた新生産管理システムの構築を決断し、その開発をコベルコシステムに依頼されました。

コベルコシステムをパートナーとして選ばれた理由は、提案内容が優れていたのはもちろん、同社における原価管理システム構築をはじめとする過去の実績、神戸製鋼グループの一員として製造業の現場で積み重ねてきた知識や経験、グローバルシステム構築の実績、プロジェクトマネジメント能力などを、総合的に評価いただいたからです。



キャタラー様 本社

新生産管理システムでは、コベルコシステムの全面協力のもと、将来を見据えてクラウド基盤を採用されました。既存のシステムで評価の高かった製造実績、ロス管理、受払在庫、棚卸などの高度な機能を活かし、操作性に優れたユーザーインターフェースをスムーズな開発で実現し、世界中の拠点で利用することが可能な共通システムが完成しました。

新生産管理システムの運用は、2019年5月からスタートしました。材料の入庫から生産、製品の出庫まですべての段階での管理が可能になっただけでなく、生産ラインのIoTを用いた生産状況の見える化やデータ精度向上の実現など、グローバルレベルでの生産のさらなる効率化が期待されています。

2020年のチェコ新工場への導入を皮切りに、2023年までに海外7拠点(タイ、南アフリカ、米国、中国、インドネシア、インド、チェコ)へ展開していく計画です。コベルコシステムは、今後もグローバル規模で同社のビジネスを支援していきます。



当社社員と一緒に
(右から二人目、理事 西川 和孝様 左から二人目、生産管理部長 川口 浩司様)



お客様の声 理事 調達・生産管理本部 副本部長 西川 和孝 様

コベルコシステムとは10年以上のお付き合いになりますが、プロジェクトに取り組む前向きな姿勢は卓越したものがあります。また、同じモノづくりの会社を母体としているせいでしょうか、一緒にやっていると肌が合うというか、当社とよく似た企業風土・企業文化

が垣間見え、その点での安心感、信頼感もあります。今後とも当社のグローバル展開に向けての協力を期待します。



公正なパートナーシップの維持

より強固なパートナーシップの構築

2016年1月から、コベルコシステムでは、「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスをご提供することが目的です。

戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化しています。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



コベルコシステム戦略パートナープログラム

- 当社との定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを共同して実施
- 当社とのリレーション強化の場の提供 (パートナー会など)
- 品質評価フィードバックの実施
- ビジネスを優先的にご紹介
- 各種研修機会の提供 (IBM主催研修を含む)
- セミナー/研修への参画
- 見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮

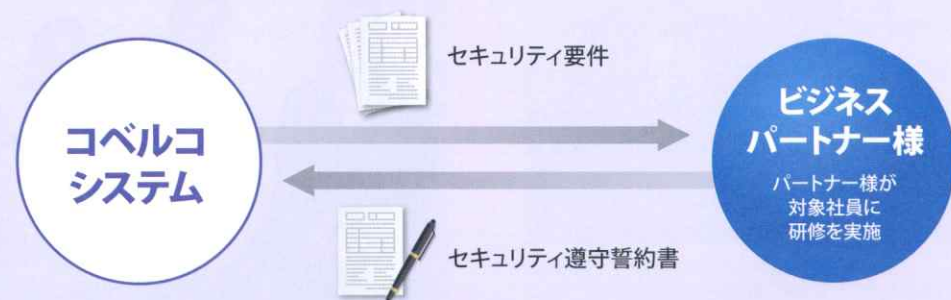
一体となってセキュリティを確保

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直しして研修を実施しています。また、ビジネスパート

ナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2019年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。

これにより、当社とビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。



適正取引の推進

当社は、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらに適正に行うために、CSR推進委員会内に「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、eラーニングなどにより、具体的なガイドを社内徹底する一方で、ビジネスパートナー様に対しても、必要に応じて情報発信やアンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いします。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

ビジネスパートナー様への感謝

毎年、当社は、「コベルコシステムパートナー会」を開催し、当社の業務に貢献いただいたビジネスパートナー様への感謝として、ベストパートナー賞をお贈りしています。

2019年のベストパートナー賞をお贈りした(株)高砂コンピューターサービス様、(株)サイプレス・ソリューションズ様から、次のようなメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

ビジネスパートナー様の声

株式会社 高砂コンピューターサービス様

株式会社高砂コンピューターサービスは1972年(昭和47年)9月に設立し、現在48期目を迎えております。弊社が48期という長きにわたり事業継続できているのは旧神戸製鋼所IT部門時代からコベルコシステム株式会社になった今でも変わらぬご愛顧をいただいている結果と受け止めております。

コベルコシステム様のCSRへの取り組みは、「法令順守」の活動のみならず、素晴らしい活動が多く、「環境への配慮」「地域社会への貢献」「安全な労働環境整備」など、グローバル社会に対応する積極的な活動は大変勉強になります。

弊社も、平成から令和へ、IT業界も盛況にある環境の中、お客様からの期待と役割を見失うことなく、安全・安心で高品質なサービスを提供できるよう、また、サービスは技術だけでなく、最後は人の手で作り上げているということをお忘れずに、丁寧に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、2年連続の「ベストパートナー」という名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。2020年「Be a Trusted Partner」に向けて、戦略パートナーとして、さらに価値のあるサービスをご提供できるよう努めてまいります。



左から、株式会社高砂コンピューターサービス 代表取締役社長 後藤様、当社社長 田野

ビジネスパートナー様の声

株式会社 サイプレス・ソリューションズ様

株式会社サイプレス・ソリューションズは、1974年(昭和49年)に創業し、今年47期を迎えています。コベルコシステム様とは、旧神戸製鋼所IT部門時代から変わらずご愛顧いただき、弊社は創業以来、システムの開発・運用・保守に携わらせていただいております。

コベルコシステム様のCSRへの取り組みは、弊社も見習うべき活動が多く勉強になります。お客様に信頼されるパートナーを目指して長期経営ビジョン「Be a Trusted Partner」を掲げられていますが、弊社もコベルコシステム様にとってのTrusted Partnerと認めていただけるように精進しなければならないと強く感じております。特にIoT、AIをはじめとする先進IT技術を取得し、長期経営ビジョンの実現に向け取り組まれている中期経営計画「Get Trust! 2020」の顧客基盤強化の足固めに微力ながらご協力させていただきたいと考えております。

定期開催される「セキュリティ関連の年次研修」では、コベルコシステム様の情報セキュリティなしではビジネスが成り立たないという強いお考えを感じ、弊社をはじめパートナー企業の技術者一人ひとりが「コンプライアンス」「セキュリティ」「プライバシー」への意識を高めていると実感しております。

非常に名誉なことに、2019年は、前年度の業績貢献度をご評価いただき、コベルコシステム様の数あるパートナー様から、ベストパートナー優秀賞に選ばれました。

これからも信頼されるパートナーとして、「法令の遵守」「情報セキュリティの保持」「個人情報の保護」に取り組むとともに、誠実、かつ強い社会的責任感を持ったうえで、先進IT技術取得に挑戦し、専門技術・知識を磨き、変化する環境を受け入れ、それぞれの役割において真のプロフェッショナルとなるよう切磋琢磨してまいります。

コベルコシステム様とさらなる信頼関係を築き、ともに成長・発展していく所存です。



左から、株式会社サイプレス・ソリューションズ 代表取締役社長 中村様、当社社長 田野

人材育成の仕組み

『コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮することこそが会社発展の原動力である』という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ

働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ~コベルコシステム認定プロフェッションを目指して~

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるようにするための複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。

そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種を目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。

専門職 職位	ライン 専門職	コンサルタント 専門職	セールス 専門職	プロジェクト 専門職	IT 専門職	経営スタッフ 専門職	事務 専門職	対外呼称	
管理職群	本部長	コンサルタント	KCP チーフ・エキスパート			経営スタッフ	担当部長	KCP認定者	
	部長・センター長	コンサルタント	KCP シニア・エキスパート					担当次長	<ul style="list-style-type: none"> チーフ・エキスパート チーフセールスエキスパート チーフプロジェクトマネジャーエキスパート チーフアプリケーションエキスパート チーフITアーキテクトエキスパート チーフITスペシャリストエキスパート チーフITサービスマネジャーエキスパート
	グループ長・室長	コンサルタント	KCP エキスパート					担当課長	<ul style="list-style-type: none"> シニア・エキスパート シニアセールスエキスパート シニアプロジェクトマネジャーエキスパート シニアアプリケーションエキスパート シニアITアーキテクトエキスパート シニアITスペシャリストエキスパート シニアITサービスマネジャーエキスパート
一般職群		コンサルタント	KCP認定			担当部長	主任・係長	<ul style="list-style-type: none"> エキスパート セールスエキスパート プロジェクトマネジャーエキスパート アプリケーションエキスパート ITアーキテクトエキスパート ITスペシャリストエキスパート ITサービスマネジャーエキスパート 	
		スペシャリスト認定	セールススペシャリスト	プロジェクトスペシャリスト	ITスペシャリスト				
			セールス	システムエンジニア					
			セールス	システムエンジニア					

複線型プロフェッショナル職制度/スペシャリスト試験制度/KCP認定制度/アプリケーションマスター制度

教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」という狙いのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与する、コンサルティング力、ものづくりや現場力の強化など、経営戦略に即応したさまざまな研修を実施しています。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修に加え、それぞれのキャリアプランにあわせて選択・受講することができる通信教育やスマートフォンでも学習できるeラーニングなどの個人のスケジュールにあわせて効率よく利用できる環境も提供しています。

2020年も、お客様のパートナー (Trusted Partner) となれる人材の育成をさらに強化します。

階層別研修 ※各社員級 (G7~G1) に求める必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修	役割別研修 ※当該の役割を担うに当たり、必須の知識・スキル・マインドに関する育成・研修	プロフェッショナル研修	共通研修 (必須研修)	戦略研修	部門独自の研修
<ul style="list-style-type: none"> 管理職としての研修 ビジネスリーダーシップの開発 実務リーダーとしての必要なリーダーシップの育成 業務遂行能力の向上 問題解決力の向上 一人前のプロフェッショナルの育成 社会人への意識改革 基本スキルの習得 	<ul style="list-style-type: none"> 部長研修 グループ長研修 アドバイザー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ヒューマンスキル リーダーシップ タイムマネジメント コーチング コンセプト スキル 論理的思考 問題・課題解決 戦略 etc. 	<ul style="list-style-type: none"> 適正取引 人権啓発 情報セキュリティ CS 	<ul style="list-style-type: none"> コンサルティング力 モノづくり、現場力 財務・会計 グローバル 	各部門による

コンサルティング力強化プログラム

ITを取り巻く環境の変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。

そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」を目指して、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまなアプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。

プログラム期間は約1年間で、2019年の受講者は各部門から選抜された若手~中堅層の11人です。今後も継続的に実施し、お客様のパートナーとして活躍できる人材を増やしていきます。



※スキルアセスメントは、必要に応じて定期的実施予定

コンサルティング力強化プログラム 参加者の声 産業ソリューション事業部 ERPソリューション本部 古和口 修弘さん

私は本研修を受講させていただくことで、お客様の長期ビジョンの実現や中期経営計画の達成に向けて、コベルコシステムとしてすべきことは何か、と強く意識してお客様と接するようになりました。本研修では、お客様の業界動向や外部・内部環境が経営方針に与える影響の分析や、コミュニケーションの取り方、提案書作成の工夫などを実践的に学びました。

また、各本部から選抜された受講者とともに学ぶことで、自分にはなかった視点から課題解決の糸口を見つけることもできました。本研修で学んだことを業務の場で活用し、お客様に「Trusted Partner」として認めていただけるよう、信頼と実績を積み重ねていきたいと思っております。



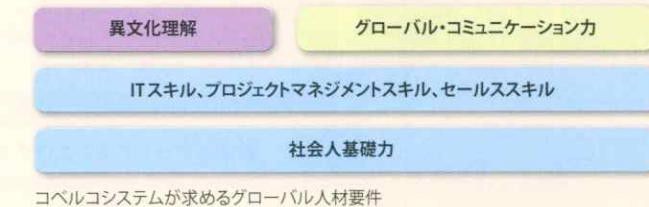
グローバル人材育成プログラム

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

2016年から、これまでの語学力サポートに加え、ビジネス上で語学力やコミュニケーションを活かせるグローバル人材の育成に重点を置いた当プログラムをスタートさせています。

当プログラムは、英語でのe-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容に

なっています。また、受講者の中でさらに選抜されたメンバーは、海外でのグローバルリーダー研修に参加しています。今後も、グローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。



グローバル人材育成プログラム 参加者の声 技術開発本部 岩元 あすみさん

実務では英語のドキュメントを読むなど、リーディングの機会も多いものの、英語でメールや会議をするといった経験はありませんでした。

本研修の特徴は、英語でのメールや会議、プレゼンする方法を全編英語で学習することだと思っております。そのため、各場面で使うフレーズを学べたことはもちろん、講師やメンバーとの英会話を通して、文法的に正しいだけでは

なく、自然な英語を習得できる良い機会でした。また、さまざまな英語学習法を教えていただき、効果的な勉強をできるようになったことは、研修後のスキルアップにもつながっています。

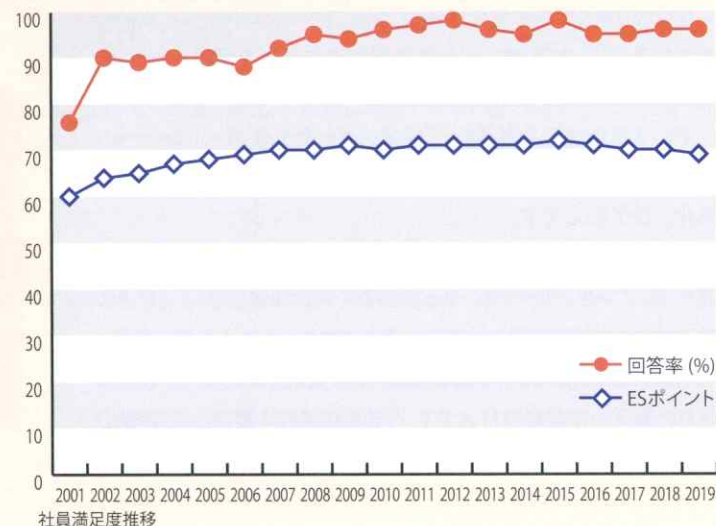
業務で担当しているデータサイエンス分野は、最新の情報が英語であることが多いので、今後も英語学習を継続し、将来的には海外のカンファレンスに参加したいです。



人材育成の仕組み

社員満足度調査

「社員満足(ES)の向上がお客様満足(CS)の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、ポイントの経年変化や、業務環境の違いにも着目して対策を講じています。また、業務環境による社員満足度のバラつきのは是正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。



ライン長研修プログラムの強化

ビジネス環境が目まぐるしく変化中、お客様に信頼されるパートナーであり続けるためには、社員一人ひとりがこれまで以上にレベルアップしていかなくてはなりません。そのためには、社員自身の自己研鑽はもちろんのこと、ライン長がリーダーシップを発揮して、部下を適切に育成・サポートしていくことが重要です。当社では全ライン長を対象とした年次ライン長研修に加え、新任ライン長に対するスタートアッププログラムを拡充し、ライン長のマネジメント力強化を図っています。

当プログラムでは、初めて部下を持ったグループ長・室長にとって今日からでも必要となる知識を、社内の実事例を教材に、各分野の第一人者であるベテラン社員が講師となり、少人数制のインタラクティブな形で提供しています。

さらに、ライン長が抱えている部下の指導・育成上の悩みや課題について、参加者同士が気楽に話し合いながら、自身の経験や社内事例から解決につながるヒントを共有しあい、明日からのマネジメントに活かすことを狙いとする座談会(マネジャートークセッション)を新たに開始しました。

今後も、当社中期経営計画の要である人材育成に取り組んでいきます。



社員と組織の絆を深めるために

KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community)

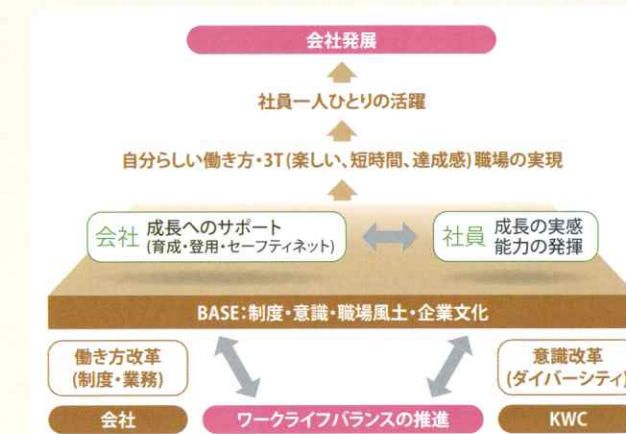
KWCは、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」を目指して展開する、ワークライフバランスに着目した全社横断の自主活動です。

2019年は、「いつでも、どこでも、いつまでも働き続けられる会社」を目指し、社員が求める制度や施策をヒアリングし、育児に伴う短時間勤務制度の期間利用延長(子が小学生始期→中学生始期まで)の提言を行いました。

またKWCでは、年に1回、ワークライフバランスについて考える全社フォーラムを開催しています。2019年のフォーラムでは、「Raise Voice, Take Action!」と題し、「こんな制度があればいいな…」と思うことなど、参加者同士で話し合いました。

ワークライフバランスを実現するためには、制度や仕組みを充実させることに加え、社内のノウハウを共有したり、社員間の絆を強くすることが大変重要です。

今後も、KWCを触媒として、社員一人ひとりのワークライフバランス実現をサポートしていきます。



KWCフォーラム

2018年度KWCリーダーの声 産業ソリューション事業部 IND本部 水島 敏郎さん

2018年度KWC活動に込めたメッセージは、「社員がイキイキと働き続ける会社」になるために、社員一人ひとりにできることが必ずあるということです。

これを訴求するためにも、まずはKWCが率先して行動し、ボトムアップで変えられることを示す必要があると考え、成果にこだわり活動を行いました。

社内の「制度」と「情報システム」の改善にフォーカスした活動の中で、「短時間勤務制度」の利用条件拡充を提言、関係各所の尽力により実現を果たすことができました。

これらKWCの取り組みから、冒頭のメッセージに共感いただける方が一人でも増え、「イキイキと働き続ける会社」になるための行動が増えることを願っています。



全社イベント「ハッピーデー」～家族とともに～

2008年から「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれる家族への感謝」をテーマとする家族参加型の全社イベント「ハッピーデー」を毎年秋に開催しています。2019年はコベルコソフトサービス株式会社の社員とその家族も加わった、「コベルコシステムグループハッピーデー2019」を開催しました。

東京地区では、総勢約540人がサンルートプラザ東京に集まりました。おいしい食事とともにプロのパフォーマーによるショーでは役員も加わり、技が成功するたびに歓声が起こるなど終始和やかに進行了。その後、ディズニーグッズが当たる抽選会が行われ、終了後にはディズニーリゾートに移動し、思い思いの時間を過ごしました。



社長挨拶

難しそうな血回し…大成功!!



ジャグリングのコツは縦に投げること!?

ディズニーグッズなど豪華景品が当たる抽選会

神戸地区ではZEPP OSAKA BAYSIDEを会場とし、総勢約1,700人が参加しました。田野社長の挨拶では2017年のUSJイベントの記憶を思い起こすような装いで登場し、皆が大いに盛り上がりました。パフォーマンスショー、USJグッズが景品となった抽選会が行われた後は、それぞれが家族や社員同士のグループごとにユニバーサルスタジオ・ジャパンを満喫して過ごしました。

互いに離れた場所で働く社員にとっては、社員同士の一体感の醸成を図れる貴重な機会です。今年も期待度の高いイベントとなり、職場とは違う表情の上司、同僚、後輩たちの顔が見られ、有意義な一日となりました。

環境保護・地域貢献活動

「森の世話人」活動

コベルシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、関係4市が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山(神戸市東灘区)南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。毎年、50人規模の全社活動を年3回、その合間に10人前後での中間活動を年間10回程度実施しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年3月から活動を開始し、10年目となった2019年末までに、全社活動を30回、中間活動を71回実施し、のべ2,000人以上が参加して活動を継続してきました。

また、これまでに「Kocoroちゃんの森」の休憩所にあわせて10脚のベンチを設置・寄贈し、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。

活動の開始から11年目となる2020年も引き続き、ネザサ刈りや伐採・間伐とともに落葉広葉樹の植樹を行い、土砂災害に強い森づくりを実施していきます。



Kocoroちゃん

コベルシステムの自然保護活動イメージキャラクター Kocoroちゃん

※第12回アニメーション神戸 協賛事業として公募



登山道周辺のネザサ狩り



みんなで楽しく植樹



2010年春頃の「Kocoroちゃんの森」うっそうとした感じの森でした。



2020年3月現在の「Kocoroちゃんの森」地道な活動できれいな森になりました。

※コベルシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。

http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php



コベルシステムの「森の世話人」活動に対し、六甲砂防事務所から感謝状

「森の世話人」間の連携や技術力の向上を狙いとして、神戸市長田区長者町の国有地に設けられた「交流の森」で、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所と「森の世話人」有志が共同で森づくりを行っており、最近では、対象を一般市民や学生にも広げて活動しています。

2019年9月に開催された第19回「交流の森」活動において、コベルシステムは功労者として六甲砂防事務所から感謝状が贈呈されました。コベルシステムの「森の世話人」活動に感謝状が贈呈されたのは、2015年に続き2度目となりました。



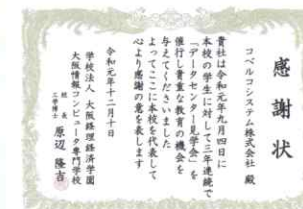
学生向けデータセンター見学会

コベルシステムでは、データセンタービジネスを行っていることから、2017年、2018年に引き続き、大阪情報コンピュータ専門学校様からデータセンターへの見学依頼があり、データセンター見学会、およびSEやオペレータの業務の説明、勉強・取得しておくべき資格などの質疑応答などを実施しました。また、この対応に対し、大阪情報コンピュータ専門学校様から感謝状をいただきました。

今回は、当社の関連会社であるコベルソフトウェアサービス株式会社に対しても感謝状が贈呈されました。



左から、大阪情報コンピュータ専門学校 担当教員 清水 素彦様、学部長 呉本 能基様、校長 原辺 隆吉様、当社社長 田野、当社常務執行役員 兼 コベルソフトウェアサービス社長 時崎



対応部門の代表者の声 システム事業部 ICT本部 藤村 貴志さん

2017年、2018年に続き今回が3回目となりましたが、データセンター見学会・質疑応答などを実施し、多くの方にご満足いただけて、大変嬉しく感じております。

また、過去にこの見学会に参加された学生の方が、コベルソフトウェアサービスに入社されているとのことで、このような活動を通じて当社のビジネスにも貢献できればと考えております。



トライサイエンス実験教室への参加

コベルシステムの東京地区では、日本IBMが実施する地域貢献活動にグループ企業として参加しています。

日本IBMでは、さまざまな社会貢献活動を実施していますが、その一環として取り組んでいる、科学技術館で開催されている「トライ

サイエンス実験教室」という子ども向けプログラムのボランティアに有志の社員が参加し、子どもたちに科学実験の楽しさを体験してもらっています。

トライサイエンス実験教室 参加者の声 営業本部 ERP営業部 厚田 卓さん

私は、職場の先輩に誘っていただき、初めてこの活動に参加しました。

内容は一言で言うと、「小学生向けの理科の実験」なのですが、中身は大人も楽しめる内容でした。たとえば、「画用紙1枚を使って、500mlのペットボトルを載せても折れない橋を作るには?」「ロケットを遠くに飛ばすには、機体のどこに重りを付ければ良いか?」など、最近流行りのクイズ番組のようなコーナーもあり、気付けば子どもたちと一緒に、夢中になって取り

組んでいました。私自身、ボランティアと聞くと「大変そう...」というイメージを持ってしまいがちなのですが、この活動は楽しみながらできるという点で、ボランティア初心者の方にも参加しやすい内容だと思います。

日常ではなかなか体験することのない活動で心もリフレッシュされ、有意義な時間を過ごすことができました。

その他の社会貢献・地域貢献活動

■スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SICIX)に協賛しています。

■地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- 神戸まつり ●神戸ルミナリエ

■芸術への協賛

公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団、公益社団法人アンサンブル神戸に協賛しています。

■兵庫県警へのサイバーテクニカルサポーターの派遣

兵庫県警察本部から委嘱を受け、テクニカルサポーターとして社員を派遣し、サイバー犯罪に対応するためのIT捜査知識・技術の向上に貢献しています。

コベルシステムのCSRを支える経営基盤

ガバナンス推進体制

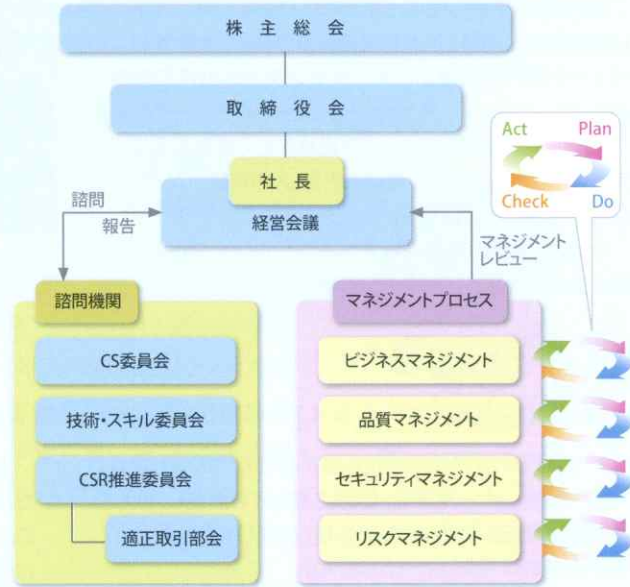
株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を中心とする

取り組みで、その結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社はビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に遂行されているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

コベルシステムのCSRとSDGsとの対照表

コベルシステムのCSR活動で、SDGsとの関連がある活動は以下の通りです。SDGsで掲げた課題・目標を意識し、かかわることで、

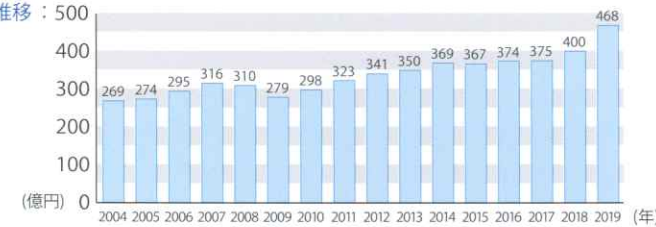
永続的にサービスを提供する企業を目指します。

内容	関連するSDGs
<p>お客様とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルイノベーションセンター 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
<p>社員とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成の仕組み KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community) 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>
<p>地域社会とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生向けデータセンター見学会 トライサイエンス実験教室への参加 国土交通省 六甲山系グリーンベルト整備事業 「森の世話人」活動への参画 	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>

会社プロフィール

会社名称: コベルシステム株式会社
 創立: 1983年10月1日 (神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
 設立: 1987年7月1日 (コベルシステム株式会社に商号変更)
 代表者: 代表取締役社長 田野 美雄
 株主: 日本アイ・ビー・エム株式会社 51%
 株式会社神戸製鋼所 49%
 資本金: 4億円
 社員数: 1,603人 (2020年1月1日現在, 関連会社 469人を含む)
 関連会社: コベルソフトサービス株式会社
 本社: 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 (シマブンビル)
 URL: <https://www.kobelcosys.co.jp/>
 売上高: 468億円 (2019年度)
 売上高推移: 500

事業所:



沿革

- 2019年: 技術開発本部 設立
 - 2018年: デジタルイノベーションセンター設立
クライアントパートナーチーム設置
 - 2017年: 会社設立30周年 記念行事を開催
日本IBMグループ統一ISMS認証取得 (SO本部)
 - 2016年: IoTビジネスセンター 設立
東京本社リニューアル
 - 2015年: 「コベルシステム クラウドインテグレーションサービス」開始
事業部制導入
 - 2014年: SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始
本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞
ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) 永年登録表彰
 - 2013年: 本社移転
「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰
 - 2011年: 中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展
 - 2010年: クラウドサービスセンター 設立
 - 2009年: 次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得
「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録
 - 2007年: 全国企業品質賞にて大賞受賞 (栃木県経営品質協議会主催)
 - 2006年: 東京事業所を東京本社と改称
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞 (栃木県経営品質協議会主催)
 - 2005年: AMS[®]センター 開設
 - 2004年: IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
 - 2003年: ISMS認証取得 (ICT本部)
 - 2002年: アウトソーシング事業を強化
日本IBMの資本参加
 - 2000年: プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得
 - 1999年: ASP事業の本格的な展開を開始
ISO9001認証取得
- ※ AMS: Application Management Service
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

取得済の認証・認定・許可

ISO 9001
JQA-3022

■ ISO9001 適用部署:
産業ソリューション事業部
システム事業部 ICT本部
システム事業部 SO本部 製造システム部
システム事業部 製造ソリューション本部

■ 登録活動範囲:
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)

JSA
ISMS
ISMS-AC
ISMS ISO9001

■ 登録組織: システム事業部 ICT本部
■ 登録範囲: インフラソリューションサービスの提供
■ 規格: JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)
■ 登録番号: JSA1 003
■ 有効期限: 2021年4月20日
■ 登録認証機関: 日本規格協会ソリューションズ株式会社 審査登録事業部

プライバシーマーク
20000795(10)

■ 登録範囲: システムに関するハードウェア製品、及びソフトウェア製品の提供
情報システムに関するビジネスコンサルティング、構築、運用、保守及びその他のサービスの提供
上記事業に関連する管理業務
■ 規格: ISO/IEC 27001:2013, JIS Q 27001:2014
■ 認定番号: 4445190-4D
(この認定書は4445190の一部を構成するものです)
■ 有効期限: 2022年11月15日
■ 登録認証機関: ビューロー・ベリタスジャパン株式会社

兵庫県知事許可一般建設業(電気通信工事業)
[許可番号/ (般-27) 第114641号]

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。本レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆いたしました。また、記載の内容をより理解いただくために図や写真を多用し、かかわった社員の声を数多く掲載いたしました。コベルシステムのCSR活動に対する皆さまの理解が深まり、親近感を覚えていただけましたら幸いです。今後もさらにCSR活動を強化し、ステークホルダーの皆さまと「ともに」の姿勢で取り組んでいきます。

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合わせ」からお願いいたします。
<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>



コベルシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号
 シマブンビル10F
 TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520



CSR Report
2020

 **コベルシステム株式会社**
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

<https://www.kobelcosys.co.jp/>

本社: 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
東京本社: 〒141-8688 東京都品川区北品川15丁目9番12号 北品川IONビル

発行: コベルシステム株式会社 CSR推進委員会
(事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



この冊子はFSC®認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。